

集落によって 異なっていた棒踊り

現在は二川の棒踊りのみ伝わっていますが、各集落によって踊りは異なっていました。現在は詳細に踊りを覚えていらっしゃる方は少なくなっていますが、できるだけ話をうかがい、違いをまとめました。

二川

元上げ[※]の語尾があがるのが特徴。ナタの踊り手は浴衣に白タスキ、鎌は袖襷に赤タスキに色物の帯を3、4本をつけます。伊達巻をまわし白ハチマキ、わらじ履き姿で踊ります。

中浜

鎌で踊る方が鼻化粧と口紅を塗っていました。男役は浴衣姿、女役は柄物で、袖が少し長い半襷を着て踊っていました。家の厄払いの意味もあるそうです。

上ノ原

元上げの語尾が下がるのが特徴です。年上がナタ、年下が鎌を持ち、浴衣姿は男役で、勇壮に大きく踊り、白装束は女役でやわらかく小さめに踊ります。二川棒踊りと比較すると、歌詞の順番が異なったり、「焼け野のきじは かやの根に住む」のように、歌詞の一部が異なります。また、「よさこん節」という上ノ原独自の歌もあり、踊りは二月祭りと同じものを踊ります。

浮津

浮津では「鎌踊り」といい、鎌部分に馬蹄を加工したものを使用しているものもあります。大きく勇壮に踊るのが特徴で、鎌部分を地面に付けた際に、意中の女性に土を飛ばすこともあったそうです。



↑昭和57年に奉納した浮津棒踊り

※元上げ・・・踊り出す前の節のこと。その間、踊り手は手や体を揺らし、体を慣らすような動きをします。

二川棒踊り歌詞

今こそとおる神にももの詣り^{めい}
 ① こんころめの 国分 加治木え、鹿見島え、
 七旗立てて おさの目のかず、
 お城^{せう}が山は前は大海、
 ③ べぶん仔の角は もしよげがそっばい、
 とっしや^しこの花は もめぼ手に染む、
 ⑤ 山太郎がねは 川の瀬に住む、
 焼け野のきじは 岡の背に住む、
 きりしま松は 黄金の花が咲く、
 清めの雨は ばらりさらりと、
 もどれとの風は そよとふきが花、
 抱き寄てねるは 月が冴えこむ、
 娘が前は 婿がなぐさむ、



↑唄い手の美声が響きます。

↓子どもたちは元気よく、大人たちは勇壮に踊ります。



棒踊り

二月祭りの流れ

公民館へ集まり、着付けする

お神酒^{かみ}を飲み、最初の棒踊りを踊る

飯牟礼神社（深港）で奉納

- ・神前で棒踊りを奉納
- ・鎌手の踊り子が、社殿の壁板をたたいて社殿を一周（神を呼び起こす）
- 全員で今年一年の農作物の豊作と家内安全無病息災を祈願

各集落を巡り、家々の前で棒踊りを踊る
 ・各家庭では、焼酎などのお神酒を出して踊り手たちに振舞います。



二川棒踊りを収録したDVDで踊りの様子も見るができます
 (H26作成)